

「第2回希望を持てる新しい日向市座談会」概要(要約)

日時 令和6年10月29日(火)19:00~20:30

場所 中央公民館 第4研修室

座談会参加者 市民: 25名

座談会次第(記録)

- 1 開会
- 2 前回座談会のふりかえり、定例市議会報告及びテーマ説明(市長)
 - 前回の参加者数や意見交換の内容紹介
(意見交換後の取組として、環境問題で挙げた「海岸の流木問題」に対して、台風第10号の影響も踏まえ、県やボランティアと連携して対応したことを報告)
 - これまでの市政の動きと今後の取り組みについて報告
 - 人口ビジョンデータを活用しながら日向市の現状・将来像を示し、テーマ説明
- 3 意見交換 テーマ「日向市に提案したいこと」
 - 以下のカテゴリ別に意見を行った。

～参加者からのご提案・ご意見概要～

① 不登校やいじめ問題への対応

意見：市長が提示した人口データを評価

不登校問題の重要性を指摘し、具体的な対策を求める

教育水準向上のため、基本的なコンフォートゾーンを作ることの重要性を提案

→ 市長：日向市も今相談体制を非常に充実させている。子どもファーストの一つは子育て支援。子ども1人1人の人権に関わること、家庭の問題への支援も重要。
令和7年度からの総合計画に盛り込む。

担当課補足：学校では、誰一人取り残されない不登校対策として「居場所づくり(別室)」に取り組んでいます。また、小中(9年間)一貫教育課程の連携や指導形態の工夫(授業)改善に取り組み、学力向上を図っています。(学校教育課)

② 土地問題と行政の対応

意見：土地と建物の番地が異なる問題から、市からの回答、対応が不十分であることを訴える。

→ 市長：問題は認識している。担当窓口を絞って、当該者に対応できる体制を図る。

担当課補足：対象者に担当窓口(総務課)を通知の上、協議を継続中です。(総務課)

③ 木材産業と住宅支援

意見：木材産業の落ち込みを指摘し、例えば、耳川杉を「ひなた杉」とするなど、ブランド化に持ち込んで、少しでも山の資源を活用してほしい。市に住宅建築への支援策を求める。

→ 市長：県産材の使用や支援体制の充実を図る。個人資産への直接支援は難しいが、県の助成利用を推奨するなど、建てやすい環境づくりに取り組む。

担当課補足：宮崎県森林組合連合会、耳川広域森林組合、耳川林業事業協同組合、デクスウッド宮崎事業協同組合、有限会社サンケイの耳川木材加工団地の事業体と耳川流域森林・林業活性化センターが共同で建築用材供給の一元化に取り組み『宮崎・耳川の杉』のブランド化を推進しています。（林業水産課）

④ ごみ出しの支援とルールの見直し

意見：○ ボランティアで生活困窮者の支援をしているが、リサイクルセンターにごみを持ち込めない方の支援が難しくなった。ごみの直接持込における生活困窮者への配慮を求める。

○ 高齢者にとってはごみ出しが大変であるため、ルールの緩和を提案。

→ 市長：ごみ出しルールの見直しと改善を検討する。委託内容も確認し、ごみ出しのルールも守りながら、捨てやすい環境について検討していきたい。

担当課補足：○ 廃棄物処理法により、ごみの運搬は原則、本人が行うこととなっています。

本人が自ら運搬できない場合、市が許可した一般廃棄物収集運搬業者による運搬(有料)は可能です。また、親戚等による運搬は認めています。親しい方(他人)による運搬については、法令に抵触する場合がありますため、事情を聞き取った上で許可するなど、柔軟に対応しています。（環境政策課）

○ ごみの分別については、ごみの減量化や資源化の観点から市でルールを定めていますので今後も引き続きご協力をお願いします。啓発ビラが貼付されたごみについては、収集を行う委託業者の判断にばらつきがないように指導を徹底します。啓発ビラ貼付のルールは、ごみの減量化・資源化の状況をみながら必要に応じて見直しの検討を行いたいと考えています。

また、ごみの持ち出しが困難な世帯で要件を満たす場合には、市がご自宅まで収集に伺う「まごころ収集」を実施していますので環境政策課までお問い合わせください。（環境政策課）

⑤ 裏山の木の伐採

意見：裏山の木の伐採と安全対策を求める。

→ 市長：他人の土地の木を勝手に切るのは難しい。区長さんらと連携をとっては。

担当課補足：該当する地域の区長へご意見内容を共有しました。（秘書広報課）

⑥ 図書館と子育て環境

意見：○ 人が集まる場所に図書館の建設が必要

○ 親が子育てしやすい環境、子どもの遊び場の提供

○ 日向市駅の利用環境の改善

○ 子どもが校区外の図書館に通えるように規制の見直しを

→ **市長：**図書館の整備については、計画を進め、市民の意見を反映させていく。

担当課補足：○ 今年度、庁内の委員会において、新しい図書館施設の基本的な整備方針を検討しています。施設に備える機能については、ご要望の点も含めて、市民ニーズを踏まえた検討を行いたいと考えています。（総合政策課）

○ 日向市駅では、鉄道高架により、まちの東西を一体化するとともに、駅前に広い芝生広場と常設の屋外ステージを設置し、賑わい創出のための市民イベントがまちの中心部で行えるように計画されています。また、隣接する商工会議所の1階は、子育て支援センターと貸し会議室を備えた市民交流プラザとして利用されています。（市街地整備課）

○ 校区は、通学環境や地域とのつながりなど、子どもたちの安全に配慮して設定しています。市立図書館の本を取り寄せ、貸出・返却・予約ができる各公民館図書室や、市立図書館が現在実施している団体図書貸出、移動図書館車もご活用ください。（学校教育課）

⑦ 介護事業所の支援と連携

意見：介護事業所の閉鎖を懸念している。介護職員の確保が課題であり、行政と現場の連携を強化する必要性を訴える。

→ **市長：**介護問題は全国的な課題。現場の声を聞きながら対応を進めたい。

担当課補足：介護職員の確保については、質の高い介護サービスを提供するために不可欠であり、職員の処遇改善や業務の効率化による負担軽減のほか、介護職の魅力向上に向けて取り組む必要があります。現在、定期的に介護職場との意見交換や情報共有の場を設けており、顔が見える関係性の構築に努めています。今後とも、様々な機会を通じて現場の声をお聞きし、施策に反映していけるよう取り組んでいきます。（高齢者あんしん課）

⑧ 上町保育所の環境改善

意見：上町保育所の駐車場改善を要望。雨天時の不便さを解消し、安心して子どもを預けられる環境整備を求める。

→ **市長：**上町保育所と細島保育所は市が直轄する保育園。他の認可保育園やこども園とのバランスも考慮しながら、安全対策に十分配慮し、現場の声を聞いていきたい。

⑨ 冠岳登山道と耳川カヌーの備品管理

意見：○ 15人ほどのグループで自主的に登山道の整備を行っているが、ロープ代の支援が欲しい。近くを通る市職員や観光課に伝えた。2～3年経つが返事がない。

○ 市有カヌーやライフジャケットに対する予算増を求める。

→ 市長：登山道の整備については、対応状況など事実確認を行いたい。

安全管理ライフジャケットの件もまた確認したい。

担当課補足：○ 市は、市有林管理のための森林整備を行っていますが、登山道の整備は行っていない。登山道については、林業研究グループが活動の一環として、階段等の軽微な整備を行っています。本要望については、要望のあった登山グループ及び林業研究グループと協議し、登山グループがロープを設置する際には、現物支給で対応したいと考えています。（林業水産課）

○ 令和2年度、令和3年度に子ども用ライフジャケットを5着ずつ、令和6年12月に大人用ライフジャケットを8着購入しました。（スポーツ・文化振興課）

⑩ 道路の美化、市職員の挨拶

意見：街中や道路の環境美化と市職員の挨拶徹底を

→ 市長：ご意見聞きおく。

担当課補足：職員の接遇については、定期的な研修を実施し、接遇向上を図っていますが、今回のご意見を基に、職員一人ひとりが挨拶の重要性を再認識し、市民の皆様への丁寧な対応を心がけるよう、さらなる改善に努めます。（職員課）

4 閉会

.....

～その他、アンケートでいただいたご意見・ご提案を紹介します～（要約）

○ 自主防災会主導の避難所を設けてほしい。

→ 担当課補足：大規模災害時には行政自体も被災することから、被災者救助や災害応急業務など、全てに対応することは困難であるため、区（自主防災会）等による避難所運営が必要となります。また、台風や大雨等の場合には、市が開設する避難所以外に、区（自主防災会）の判断によって、自治公民館等を自主避難所として開設している地区があります。各区（自主防災会）において、自主避難所を開設する場合には、事前に運営体制などのルールづくりが必要であると考えています。（防災推進課）

○ 住みたくないアンケートの一位は交通手段が悪いとのこと。特に中山間地域の交通手段の改善を。子どもファーストの関連から、子どもの救急外来があると子育ての充実が図られると思う。

→担当課補足：新たな交通サービスの導入も検討しながら、利便性の高い地域公共交通を維持していきます。(総合政策課)

○ 市職員のメンタルヘルスは？職員は市民の財産である。

→担当課補足：ご意見いただいたとおり、職員の心身の健康維持は、市民の皆様により良い行政サービスを提供する上で非常に重要です。定期的な健康診断やメンタルヘルス研修を通じて、職員が安心して働ける環境づくりに努めます。(職員課)

○ 日向市駅を使いやすく、駅は市の顔です。

①トイレが不便(便器のボタンが押しにくいので、そのままの状態が・・・)

②トイレのそばにベンチ、長椅子をおいてほしい③お茶をする空間が欲しい

④空調がない⑤無駄な空間を有効活用

→担当課補足：駅の施設については、JR九州と情報共有し、改善いただけるようお願いしています。(総合政策課)

ご意見参考にさせていただきます。なお、③については、まちの駅とみたか内のカフェスペースや周辺店舗のカフェ等がご利用いただけます。⑤については、JR構内1階はステーションギャラリーとして市民作品の発表の場などに活用しています。(市街地整備課)

○ 少子高齢化と資材高騰で地元工務店が厳しい状況。公共事業や住宅リフォームに宮崎スギ(耳川スギ)を使用し、日向市のブランドとしてPRをお願いしたい。『ひなたスギ』、良い名称。

→担当課補足：耳川スギについては、福岡市木材市場で開かれる耳川産材フェアへの出展や、川崎駅前「優しい木と緑のひろば」への出展に対する支援を行い、PR及びブランド化を推進しています。今後も木材の大消費地である都市部と密接な関係を構築し、関係団体等と連携し、販路拡大の支援及び耳川スギのPRに取り組んでいきます。(林業水産課)

○ 文化的イベントの実施を望む。

→担当課補足：現在、市美展や総合文化祭、牧水・短歌甲子園等を開催しており、内容を充実させていきたいと考えています。(スポーツ・文化振興課)

○ デジタルノマドの誘致には交通の便が重要。日向市駅のタッチ決済対応とごみ出しの利便性向上が必要。

→担当課補足：交通系ICカードが利用できるようJR九州に対し、要望活動を行っているところです。(総合政策課)

○ 耳川スギの地元利用を進め、子育て世帯が家を建てやすい環境の整備、再造林を促し、山づくりを推進。50～60代のUターン者支援も強化を。

→担当課補足：森林の持つ公益的機能を持続的に発揮する森林づくりを進めるとともに、豊富な森林資源の有効活用を図るため、森林環境譲与税を活用し、公共建築物等の木質化を推進しています。今後とも、県や関係団体等と連携し、非住宅分野における木材利用など需要拡大に取り組んでいきます。（林業水産課）

○ 避難所のペット同伴を認めてほしい。延岡は9か所OKとあった。避難所も地区に任せて地区の人でペットを認める方向では。

→担当課補足：本市の指定避難所となっている学校施設や公立公民館については、アレルギー等の観点から、避難者とペットが同じスペースで過ごす同伴避難※1は認めていません。

もし、ペットと一緒に同行避難されてきた場合は、ペットをゲージ等に入れてもらい、雨風をしのげる場所や車の中に置いてもらうこととしています。

また、各区がそれぞれの判断で自治公民館等を自主避難所として開設する場合は、ペットの同伴等への取り決めが必要になります。

※延岡市は、本市と同じ「ペット同行避難※2方式」で対応しているとのこと。

（防災推進課）

※1 同伴避難：避難所等でペットと人が同じスペースで過ごすこと

※2 同行避難：飼い主がペットを同行して避難所等まで安全に避難すること

○ 人口減少対策として、転出入データを分析し、若者の転出理由や転入者の年齢・理由を基に重点分野を強化して。有識者の介入で期待できる分野への支援を行うべき。

→担当課補足：人口減少対策については、令和6年8月に改訂した「日向市人口ビジョン」の分析結果をもとに策定作業を行っている「第3期日向市総合戦略（R7.4～R11.3）」に基づき、各施策を推進していきたいと考えています。（総合政策課）

○ 終末期を自宅で迎える事の出来る日向市

日向市では訪問診療や看護事業所が増え、自宅での終末期ケアが可能だが、介護職員不足が課題。在宅介護支援体制の整備が必要であり、経済効果も期待される。

→担当課補足：終末期を自宅で迎えたいと希望する人が増えており、必要な時に必要な医療・介護サービスが利用できる環境の整備を進めています。

本人や家族が安心して生活が続けられるように、引き続き医療と介護の連携強化、地域全体での支援体制の整備などに取り組んでいきます。（高齢者あんしん課）

○ 移住者施策

人手不足解消のため、県外からの移住者に対し、住民税免除や子どもを産む条件付きの支援策を検討しては。条件未達成時は追加税徴収も考慮するなど。

→担当課補足：移住定住の促進については、都市部からの移住者に対する支援金やお試し滞在施設の運用など様々な対策を行っています。移住を検討している人には、本市の生活環境などを十分に理解した上で移住を決定してほしいと考えています。そのため、金銭的な支援だけではなく、移住先として本市を選んでいただけるよう、子育て支援の充実など魅力的なまちづくりに努めていきます。（総合政策課）

○ 学校の施設利用

災害時には小中学校の体育館や教室が利用されるが、古いため大地震で使えなくなる可能性がある。全体的に補修を行い、スポーツに特化した改修を行うと良いのでは。

（例：小学校の体育館をバスケット専用に変更、学校の図書室や家庭科室を開放）

→担当課補足：学校施設は、学校活動に加え市民へのスポーツ開放・災害時の避難所としても利用しています。建物は建築後30年を経過している建物が多くあり長寿命化計画に基づき改修を進めているところです。図書室等の一般開放については、蔵書書籍の問題や教室の配置等に課題があることから今後の参考とさせていただきます。（教育総務課）

○ エンターテインメントの活用

日向坂 46 の「ひなたフェス」で宮崎の経済波及効果は約 29 億円。オタク層の聖地巡礼が消費を促し、観光客増加と経済効果が期待される。日向市出身の「大暮維人」氏などもそのような媒体で知ってもらうことも大事では。

→担当課補足：市が愛称「日向坂」とした坂道は、今後も継続していきます。また、「日向坂」には、ひなたフェスで観光の時間がとれなかったファンが訪れ、聖地巡礼地となっています。今後もロケやイベントなど積極的な受入を行うとともに、本市出身の著名人についても様々な形で協力をお願いしていきたいと考えています。（観光交流課）